

An Ant Strikes Back

了少地就天国

山形国際ドキュメンタリー映画祭 2019 日本プログラム公式上映作品

貧困ジャーナリズム賞 2019 受賞作品

監督/土屋トカチ『フツーの仕事がしたい』

取材協力/プレカリアートユニオン ナレーション/可野浩太郎 主題歌/マーガレットズロース「コントローラー」 撮影・編集・構成/土屋トカチ 構成/飯田基晴 整音/常田高志 企画/小笠原史仁・土屋トカチ 広告デザイン/信田風馬(創造集団440Hz) 制作/映像グループローポジション・白浜台映像事務所 配給/映像グループローポジション 日本/2019/98分/デジタルファイル 監督自身の体験からくる憤怒を帯びたカメラが、当節日本社会の全貌を 捉え、人間の尊厳を浮上させる怒りの作法は、ケン・ローチの新作『家 族を想うとき』とひと連なりだ。

日本中の働く者たち、特に若者に観て欲しい。

中川敬

(ミュージシャン/ソウル・フラワー・ユニオン)

絶句するほどの劣悪な労働条件、徹底的に踏みにじられる労働者。 一瞬にして鬱になりそうだった。現代の労働地獄絵図と、それでも勇気 を持ち立ち上がる労働者を、カメラは捉え続けた。

闘うことで、会社と社会を変えることができるかもしれ ない。そんな希望を感じさせる傑作だ。

常見陽平

(千葉商科大学国際教養学部専任講師/働き方評論家)

『アリ地獄天国』は、ブラック企業と闘う労働者の映画ですが、 会社とは何かと問われる映画でもあります。

労働者だけでなく、 経営者の皆様にもぜひ見ていただきたいです。

追川 尚子 (写真家/ベルク副店長)

権力が暴走する日本でいま最も重要で必要な映画、それが『アリ地獄天国』。

アリよ、蝶のように舞い、蜂のように刺せ! 社会を刺せ! 時代を刺せ! 日本を刺せ!

村上浩康 (映画監督)



日本政府の重要政策のひとつ「働き方改革」が叫ばれている いま、労働環境の改善が深く問われている。きっかけのひとつ に「ブラック企業」「ブラックバイト」なる言葉が広く認識され、 大きな社会問題となってきたことが挙げられる。異様な労働環 境のもと、長時間労働を強い、法律を無視し、人権を踏みにじ るような企業経営は、あとを絶たない。大企業での過労死や過 労自死も記憶にあたらしい。

本作「アリ地獄天国」は、理不尽な労働環境に置かれた30 代の正社員が、改善を求めて個人加盟型の労働組合に加入し、 たたかった3年間の記録である。どうすれば真の意味で「働き 方改革」が実現できるのか。この映画体験は、そのヒントにな るかもしれない。

WEB: http://ari2591059.com/

- **ari2591059**

🚺 東京都中央区京橋1-1-5 セントラルビル11階 JR東京駅八重洲中央口から徒歩4分(八重洲地下街24番出口右階段すぐ)、

上映会のご予約・お問い合わせ 一般財団法人 大竹財団

- 東京メトロ京橋駅7出口から徒歩3分、東京メトロ日本橋駅B3出口から徒歩4分 📵 https://ohdake-foundation.org 🐧 03-3272-3900

とある引越会社。社員らは自らが置かれた状況を「アリ地獄」 と自虐的に呼ぶ。それは、長時間労働を強いられ、事故や破損 を起こせば借金漬けに陥る状況を指す。営業職の34才の男性 は異議を唱え、一人でも入れる個人加盟型労働組合に加入した。 すると、粉塵の舞うシュレッダー係へ配転され、給与は半減。 のちに懲戒解雇に追い込まれた。事由を記した「罪状ペーパー」 なる掲示物も全国支店に貼りだされた。間もなく解雇は撤回さ れたが、復職先は再びシュレッダー係。それが2年間も続く。 さらに、法律違反である労働組合への不当労働行為が発生。「差 別人事」の実態も取材を通じて明らかとなった。一方、大学時 代からの親友の自死を止められなかった監督は、後悔の念に苛 まれていた…。

生き残るための、労働映画 (ロードームービー)、誕生!



セス方法が検索できます

